

平成26年度環境シンポジウム

低炭素社会の実現に向けて



公益財団法人
宮城県環境事業公社



平成26年度環境シンポジウム

低炭素社会の実現に向けて

と き／平成**26**年**10**月**16**日（木）

ところ／イズミティ21 小ホール

主催／公益財団法人 宮城県環境事業公社

後援／経済産業省東北経済産業局

環境省東北地方環境事務所

宮城県

“平成26年度環境シンポジウム”



講演会場風景



芦名講師



茂木講師

TIME TABLE

13 : 30 開 会
あいさつ

13 : 40 講 演 I 「低炭素社会実現に向けた取り組みを考える
私たちができることを考えるには？」

15 : 20 休 憩

15 : 30 講 演 II 「トヨタの環境への取り組み」

16 : 30 閉 会

講演 I

低炭素社会実現に向けた取り組みを考える
私たちができることを考えるには？ …… 7

独立行政法人 国立環境研究所
社会環境システム研究センター 主任研究員
芦 名 秀 一 氏

講演 II

トヨタの環境への取り組み …… 43

トヨタ自動車株式会社
環境部 環境室 担当部長
茂 木 和 久 氏

あ い さ つ

公益財団法人宮城県環境事業公社

理事長 和 泉 長 衛

平成26年度の環境シンポジウムの開会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。

本日はお忙しい中、お集まりいただき感謝を申し上げます。また、日頃から私ども環境事業公社の事業に格別のご理解とご支援を賜っておりますことに、この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、多くの犠牲者を出したあの3.11の大震災から3年7か月が過ぎました。私ども公社では、平成25年1月から今年の3月までの間、津波被災地で発生した震災廃棄物約12万トンを埋立処理し、復興の支援をしてまいりました。行政や、民間団体、地域住民が復興に向けてご努力されていますが、さまざまな理由から被災された皆さんの生活再建は、まだまだとの感は否めません。1日も早い復興を祈っているところでございます。

災害と言えば、最近でも大雨による広島県での土石流、御嶽山の噴火、巨大台風の襲来等大きな被害が出ましたし、その犠牲になった方々がおられます。繰り返される自然災害の前に、土木技術、予報技術、情報通信技術が急速に進歩発展しているこの日本で、なんでこんなことが続くのかという疑問と、そして無力感を感じるがあります。

防御のためのハード整備や情報伝達、避難方法などのソフト面での対応は、もちろん、すごく大事なことではありますが、近年の台風の大型化、ゲリラ豪雨、猛暑、かんばつ、海面水位の上昇などの自然災害や生態系の変化などには、地球温暖化に伴う気候変動が少なからず影響しているのではないかとされています。

低炭素社会の構築により、地球温暖化の速度を暖め、あるいは止めることで、将来を生きていく子供や孫、その先の世代に健全な地球環境を残すことは、今生きている私共世代の務めであります。

循環型社会や低炭素社会構築の重要性は、ここにお集まりの皆さん方は十分ご認識のこととは思いますが、しかし、重要性の認識から一歩踏み込んで、確実に低炭素社会を構築するために企業や家庭ではどんなことをやればよいのか、その道筋がはっきりしないのではないのでしょうか。

そこで、今回は、低炭素社会構築に焦点を当て、幅の広い環境研究に学際的かつ総合的に取り組んでいる国立環境研究所から芦名先生を、また、具体的に低炭素社会に取り組んでいる企業としてトヨタ自動車株式会社から茂木先生を講師にお招きし、ご講演をいただくことにいたしました。私たちがさらに一歩踏み込んだ活動を行うためのヒントになれば幸甚です。



“平成26年度環境シンポジウム”

終わりに、本日のシンポジウムの開催にあたりまして、ご多忙の中、快く講師を引き受け下さいましたお二人に深く感謝申し上げます。

また、ご来場の皆様におかれましては、最後までご清聴賜りますようお願いを申し上げ、開会に当たってのご挨拶といたします。